

# 漁況情報 No.8

平成 18 年 7 月 25 日発行

岩手県水産技術センター 漁業資源部

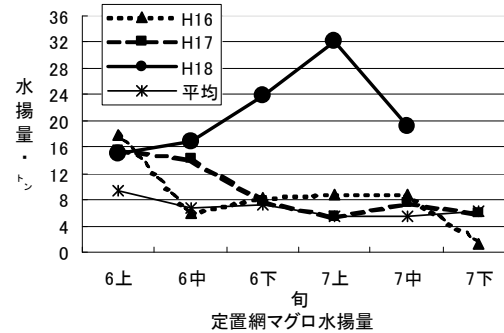
Tel : 0193-26-7915、Fax : 0193-26-7920、E-mail : [CE0012@pref.iwate.jp](mailto:CE0012@pref.iwate.jp)

\* 本報は当センターホームページ (<http://www.pref.iwate.jp/hp5507/>) に掲載しています。

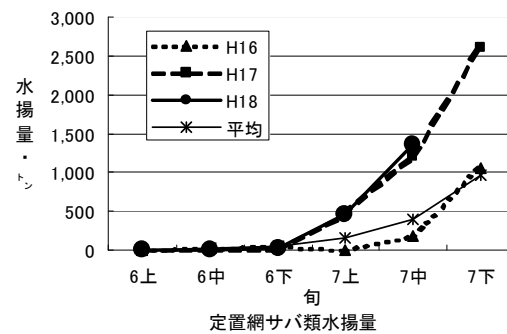
＜＜ トピックス ＞＞  
クロマグロ、サバ類(定置網)の水揚げが引き続き好調です。  
スルメイカ(いか釣り)は低調に推移しています。

## 1. 水揚げ状況

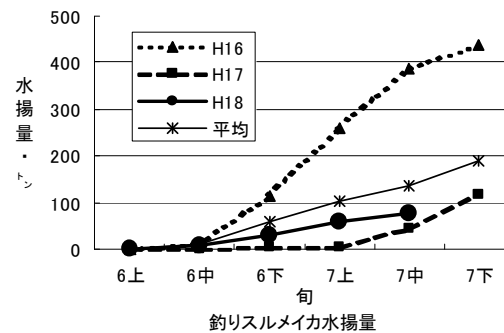
(1) クロマグロ(定置網)は釜石、大船渡を中心に水揚げがありました。7月中旬の水揚量は19トン(前年の2.5倍)、年累計119トン(前年の1.9倍)でした。また、7月中旬の過去5年間の平均水揚量は5.4トンで、旬水揚げはその3.6倍でした。



(2) サバ類(定置網)は釜石、大船渡を中心に水揚げがありました。7月中旬の水揚量は1,350トン(前年の111%)、年累計は1,831トン(前年の109%)でした。また、7月中旬の過去5年間の平均水揚量は401トンで、旬水揚げはその3.4倍でした。



(3) スルメイカ(いか釣り)の7月中旬の水揚量は75トン(前年の1.7倍)、年累計は172トン(前年の3.3倍)であり、水揚げの少なかった前年を上回りました。しかし、7月中旬の過去5年間の平均水揚量は136トンで、旬水揚げはその55%でした。



\*水揚げ状況は主要6港(久慈、宮古、山田、大槌、釜石、大船渡)の集計です。

## 2. 調査結果、その他の情報

(1) 平成18年度太平洋スルメイカ長期漁況予報(抜粋)

関係機関との検討に基づいて作成された7~9月のスルメイカ漁況予報が、北海道区水産研究所から次のとおり発表されましたのでお知らせします(7月14日発表)。

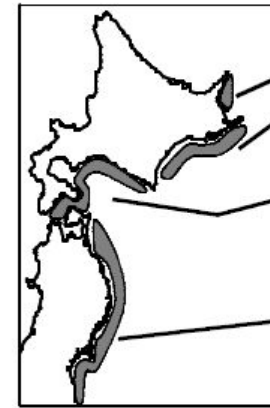
今後の見通し(2006年7~9月)

常磐~北海道東部までの北部太平洋海域におけるスルメイカの来遊水準は2005年を上回る。

今後の見通しの説明

<常磐~三陸海域(いか釣り、底曳網、定置網、まき網)>

常磐~三陸沿岸域での漁獲対象資源は太平洋沿岸域を北上する群が主体であり、これに津軽海峡から加入する日本海由来の群れが加わると推定されています。三陸近海および津軽海峡周辺海域における漁獲情報と調査結果から、三陸周辺海域に来遊するスルメイカの資源水準は2005年を上回ると推測されます。魚体は、一斉調査及び漁獲物の測定結果から、前年よりも2~4cm程度大型の個体が主体になると考えられます。(詳細は水産庁または北海道区水産研究所ホームページに掲載されています。)



- 北海道東部~根室海峡周辺海域:  
来遊量は2005年並みかやや下回る  
魚体は18~22cmが主体
- 津軽海峡~北海道南部海域:  
来遊量は2005年を上回る  
魚体は19~21cmが主体
- 常磐~三陸海域:  
来遊量は2005年を上回る  
魚体は20~24cmが主体

(2) サンマ精密測定結果

7月中旬に釜石魚市場に水揚げされたサンマ(定置網による漁獲)の精密測定を行いました。体長のモードは前回測定した6月下旬と比較して、オスはほぼ同様だったものの、メスは1cm程大きく32cmがモードとなり、メスの方が大きい傾向が見られました(図1)。また、メスの生殖腺重量の平均値が8.62gと前回6.24gよりも増加していました(図2)。

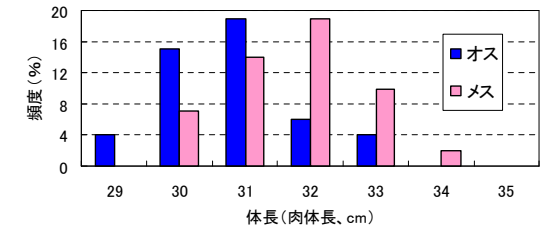


図1 サンマ体長組成

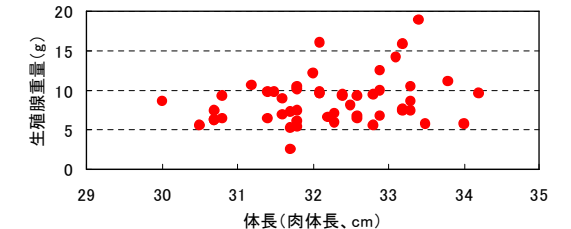


図2 サンマ(メス)生殖腺重量

「フィッシャリィ・ネットいわて」(<http://www2.suigi.pref.iwate.jp/>)で、日別・市場別・魚種別の水揚げ状況、定地水温などを検索できますので、こちらもお活用下さい。